

ブロッコリー黒すす病に対する殺菌剤の防除効果

福島県農業総合センター 生産環境部作物保護科

1 部門名

野菜－ブロッコリー－病害虫発生、病害虫防除

2 担当者

央戸邦明・鈴木洋平

3 要旨

2010年秋からブロッコリー産地において黒すす病(*Alternaria brassicicola*)の発生が確認され、収穫量を減少させる要因となっている。現在、本病の適用農薬がないため、ブロッコリーの糸状菌病害に既に適用のある殺菌剤の防除効果を検討した。

- (1) ポスカリド水和剤(カンタスドライフロアブル)及びアゾキシストロビン水和剤(アミスター20フロアブル)の花蕾の平均防除価は100、葉の平均防除価は90前後と効果が高く、ついでマンゼブ・メタラキシル水和剤(リドミルMZ水和剤)の効果が高い(図1)。
- (2) トルクロホスメチル水和剤(リゾレックス水和剤)及びTPN水和剤(ダコニール1000)の防除効果は低い(図1)。
- (3) 薬剤散布は、出蕾期までの予防的な散布で効果が認められた。したがって、各供試薬剤の使用時期、使用方法を留意の上、他病害に対する予防散布で本病を同時防除できる(リゾレックス水和剤は、使用方法が灌注のため、散布での使用はできない)。

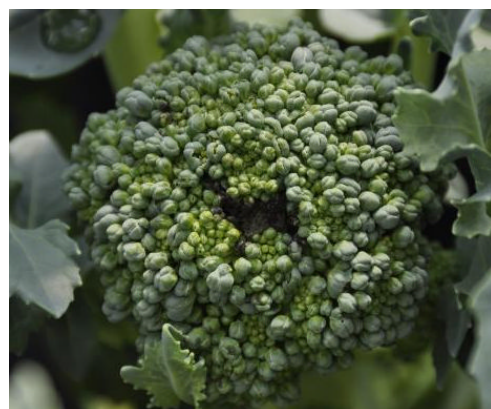
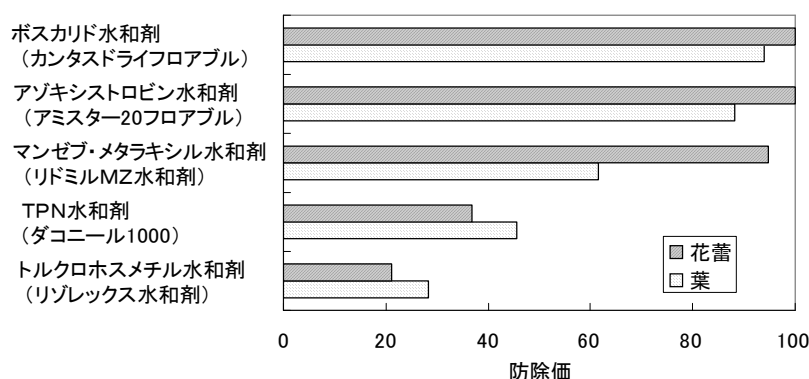


図 ブロッコリー黒すす病に対する防除効果

写真 ブロッコリー黒すす病の症状

注)防除価＝(無処理区の発病度－試験区の発病度)÷無処理区の発病度×100

防除価が100に近いほど防除効果が高い。

無処理区の平均発病度は、花蕾が31.7、葉が49.7であった。

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 平成23年度～26年度
- (2) 研究課題名 新奇・難防除病害虫の効率的防除技術の開発
- (3) 参考となる成果の区分 (指導参考)

5 主な参考文献・資料

- (1) 平成23年度センター試験成績概要